

これを記念し、昼食は中華料理としました。記念例会に因みまして、本年の基本方針「国際奉仕への関心と理解を高める…。」に基づき国際奉仕委員としての私の経験を話します。

・入会2年目で国際奉仕委員になりました。

右も左もわからず、「赤十字みたいなもの?」のイメージでした。さらにその年、アジア地区大会に参加させて頂きました。

・中壢RCとの姉妹クラブ締結調印式では中壢の会員と会話もできず(通訳無し)、酒も飲めず(下戸です)。黙々と食べ、目が合うとニッコリするだけの辛い時間でした。

・昨年ネパールを訪問し、理解しがたい現実がいくつかありました。

・中国の新聞に対日の「排斥と敬意」の記事がありました(ヤフーニュース)。お互いを正しく知ることで排斥の念が、敬意に変わる瞬間があります。

②細則・内規改定について

細則内規検討委員会委員長 藤谷家也会員

すでに皆さんには文書でお伝えしてありますが本例会にて改定内容の審議・承認をお願いします。

(RCでは、総会は役員選出の承認の場であり、各決議事項の承認は、例会で行うこととなっています。)

○細則改定(抜粋)

- ・理事定数変更 14人→12人
- ・資料委員会は削除
- ・名称変更

クラブ運営→クラブ管理運営

新世代→青少年

奉仕の理想→奉仕の理念

○内規改定(抜粋)

・各記念品についての内規

・ニコニコ箱寄付についての内規

○定款改定報告(抜粋)

・専業主婦(夫)の入会が可能になります。

* * * 奥村会長を議長とし、細則・内規改定について会員の拍手を持って、承認されました。 * * *



報告事項

幹事報告：宇野晃成幹事

●地区公示●

12月14日地区ガバナー指名委員会が開催され、2016-17年度当地区ガバナー候補者として、敦賀RCの刀根莊兵衛(とね しょうべえ)君を推薦することに決定いたしました。

各クラブより対抗候補者を推薦することができますが、そのクラブはクラブ例会にて採択された決議に従い、候補者指名を公示期間内にガバナー宛に提出しなければなりません。期限内に対抗候補者の推薦が無い場合は、地区ガバナー指名委員会の推薦した候補者で決定することいたします。

公示期間：2013年12月16日～29日

会員記事

ロータリー財団より以下の承認がありました。

ベネファクター	奥村 忠
ポールハリス・フェロー	佐々木忠彦(3回目)
	米岡房直(3回目)
	宮本 俊(2回目)
	橋本 実夫

ニコニコ箱 …… 8,000 円 累計 658,300 円

- ・ちょっと 【奥村 忠】
- ・今年も終わり。ありがとうございました。【鎌谷忠雄】
- ・ニコニコ委員長玉村さん、ご苦労様です。【竹内紀昭】
- ・年末になりました。 【杉原春樹】
- ・越前タンスが伝統工芸品目に認定されます。 【中西真三】
- ・いつもニコニコありがとうございます。 【玉村一男】

例会変更情報／福井県内ビジター受付(12月25日～1月7日)

12月25日 丸岡RC	休会 受付なし
12月25日 福井北RC	休会 受付なし
12月26日 武生府中RC	12:00～12:30 JA越前たけふ会館1階
12月26日 福井水仙RC	18:00～18:30 福井パレスホテル
12月27日 福井あじさいRC	休会 受付なし
12月27日 三国RC	12:00～12:30 三国観光ホテルフロント
12月30日 福井東RC	休会 受付なし
12月30日 敦賀西RC	休会 受付なし
12月31日 若狭RC	休会 受付なし
1月7日 福井南RC	12:00～12:30 織協ビル正面玄関
1月7日 若狭RC	17:30～18:00 海幸苑

*変更の無い各クラブの定期例会については、ロータリーの友ホームページ等にてご確認ください。

本日(12月23日)の例会
17:30～ ベルナル
クリスマス家族会
親睦活動委員会

12月31日	1月7日 第一例会行事 会長年頭所感	1月14日 新春越前市の課題 中西真三会員
休 会		



2013-2014 RI テーマ
ロータリーを実践し、
みんなに豊かな人生を

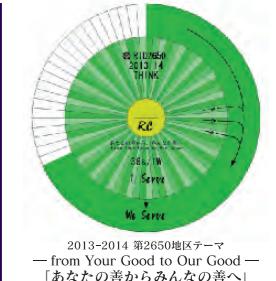
ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2650

TAKEFU WEEKLY



Rotary Club of Takefu

2013.12.23 No. 2310



いで、おそらく切れ痔で悩まされていたと思われます。

15人の将軍の死因を調べてみると、死因不明の1名を除いて14名が判っています。初代家康は食中毒あるいは胃癌で75歳、2代秀忠は胃癌で54歳、3代家光、8代吉宗はそれぞれ脳卒中でそれぞれ48歳と68歳、最も多いのは脚気による心不全で、10代家治は50歳、13代家定は35歳、14代家茂は21歳で亡くなっています。

この脚気は江戸わずらいといわれて、田舎から江戸に出てくるとかかるのでその様に言われたようです。なぜそうなるのか？ 食事と関係があります。米は今のお金と同等の価値あるもので、農家では米を年貢として出しますので粟と稗を食べていました。一方江戸はというと全国から米が集まるため、庶民でも一日五合の米を食べていたといいます。そんな江戸に地方の人が来ると、めったに食べられない米をおかずを食べずに毎日3食食べ続ける。白米はビタミン・ミネラルを取り除いた米で、そのためビタミンB1が不足し、血圧が低下し、脚気になりやすかったようです。江戸に住む人が余り脚気にならなかったのはビタミンB1の豊富な蕎麦・麦飯・小豆などをバランスよく食べていたためだと思われます。庶民は病気のときはどうしていたのでしょうか？ 江戸時代中期には市販薬が出回り、店の10軒に1件は薬種問屋であったということです。旅の必需品として錦袋円、これは二日酔いに効いたようです。萬金丹・救命丸・寿應丸・根元丹その他無数に出回ったようです。長生きするには、病気にならぬよう養生することが重要であるといわれ、色々な書が出ています。中でも有名なのは貝原益軒の養生訓です。この人は福岡藩黒田家に仕えた本草学者で85歳まで長生きし、養生訓を著わしたことで有名です。時間が長くなりますので養生訓の話は来年のお楽しみといたします。

プログラム

- ① 中壢扶輪社との姉妹クラブ締結記念例会に因んで
国際奉仕委員会委員長 田中 茂 会員
本例会は、中壢RCとの姉妹クラブ締結記念例会です。